

## [成果情報名]ネギ夏まき秋植えによる6月どり栽培

[要約]宮城県ではネギの晩抽性品種を用い、8月下旬頃に播種し11月下旬頃に定植することで、厳寒期に農POフィルムを用いたトンネル被覆を行わなくても、ネギの端境期に当たる6月収穫が可能となる。

[キーワード]ネギ、晩抽性品種、端境期

[担当]宮城県農業・園芸総合研究所・野菜部・露地野菜チーム

[代表連絡先]marc-ya@pref.miyagi.lg.jp

[区分]東北農業・野菜花き(野菜)

[分類]研究成果情報

### [背景・ねらい]

宮城県のネギ生産は、近年水田転換畠や基盤整備ほ場に作付けされ、生産量が年々増加している。県内の作型は秋冬どりが中心となっており、5~7月は抽だいの問題により端境期となっている。そこで、露地ほ場におけるネギの6月どり栽培の確立を目的とし、夏まき秋植え栽培について検討する。

### [成果の内容・特徴]

1. 11月下旬頃の定植では、定植時の苗の生育ステージを若い段階で植え付けると、欠株率が上がる傾向があるため、播種日は8月下旬頃とする(表1)。定植時の苗の生育は、葉数5枚、葉鞘径3.4mm程度を確保する(表2)。
2. 越冬後の生育として、葉鞘径が7.0mm程度になると抽だいの危険性が高い(表2、3、4)。
3. 本作型では、抽だいの発生が遅い晩抽性品種を用いる。「羽緑一本太」は、試験で供試した4品種の中で葉鞘径が太く、葉鞘長が長く、調製重が重いことから、優れた品質の収穫物が得られる(表2)。
4. 宮城県においては農POフィルムによるトンネル被覆を行わなくても、本技術の導入により越冬後の欠株率は5%以下と低く抑えられる。また、定植時期を11月下旬頃に行うことで収穫時の抽だい発生も抑えられ、トンネル被覆を行った場合と同等の生育と収量が得られる(表3、4)。

### [成果の活用面・留意点]

1. 本試験は、2019年から2021年にかけて、いずれも宮城県農業・園芸総合研究所内(名取市)の露地ほ場灰色低地土(土性:埴土)で行った試験で得られた結果である。
2. 定植までは、生育に合わせて液肥の施用と草高15~20cmを目安に剪葉処理を適宜行う。
3. 本ぼ施肥量は、基肥窒素成分量で8kg/10aとし、その後は生育を見ながら窒素成分量で15kg/10aを4~5回に分けて追肥する。また、当試験ではチェーンポットCP-303に播種して1穴2株立ちとし、栽植密度を畝幅100cm、株間5cmの40,000株/10aとした。
4. 栽培期間中は、春先のネギアザミウマ、梅雨時期に発生するさび病やべと病を中心に防除する。特に本作型の収穫は梅雨時期と重なるため、防除はこまめに実施する。

### [具体的データ]

表1 播種日と品種の違いが定植時生育とトンネル除去時生育に及ぼす影響(2019年)

品種名	播種日	定植時生育 (12/12調査)		トンネル除去時生育 (3/24調査)		収穫時生育 (6/22調査)		
		葉数 (枚)	葉鞘径 (mm)	草丈 (cm)	葉鞘径 (mm)	草丈 (cm)	調製重 (g)	欠株率 (%)
羽緑一本太	8/27	4.0	3.4±0.5	43.8	7.9±1.1	89.2	150.8	26
	9/17	2.9	2.7±0.3	36.5	7.6±1.0	94.3	175.0	38
	10/8	2.8	2.0±0.1	30.8	6.3±1.2	89.0	150.2	74
深緑のいざない	8/27	4.0	3.8±0.4	37.4	7.5±1.1	87.8	182.8	43
	9/17	3.0	3.0±0.3	30.7	7.1±1.0	90.4	176.5	42
	10/8	2.9	2.2±0.2	26.2	6.1±1.2	86.2	193.2	81

注1) 定植日: 2019年12月12日、トンネル被覆期間: 定植日～2020年3月24日

注2) 調査株数: 定植時生育=10株反復なし、被覆除去時生育・収穫時生育=20株(10株×2反復) 注3) 平均土標準偏差

注4) 調製: 葉数2.5枚とし、根は5mm程度に切り揃えた 注5) 欠株率: 定植株のうち、収穫日時点での欠株が確認された割合

表2 定植日と品種の違いが定植時生育とトンネル除去時生育に及ぼす影響(2020年)

定植日	品種名	定植時生育			トンネル除去時生育 (3/18調査)			収穫時生育 (6/22～24調査)		
		葉数 (枚)	葉鞘径 (mm)	草丈 (cm)	葉鞘径 (mm)	欠株率 (%)	葉鞘径 (mm)	葉鞘長 (cm)	調製重 (g)	抽だい 株率 (%)
11/4	華の宝山	4.1	2.7±0.4	48.9	6.9±1.8	13	15.7±2.5	37.2	129.1	24
	羽緑一本太	4.4	3.0±0.3	50.8	7.5±2.8	25	13.8±4.1	35.3	97.5	56
	深緑のいざない	4.3	2.9±0.4	44.3	7.1±1.9	13	15.5±3.4	37.6	118.6	84
	龍まさり	4.2	2.6±0.3	46.0	6.8±1.8	10	13.6±2.2	39.8	102.8	13
12/2	華の宝山	4.9	3.0±0.4	25.4	6.5±2.2	0	16.6±2.5	33.6	154.9	0
	羽緑一本太	5.0	3.4±0.4	32.0	8.2±2.3	5	17.2±2.5	38.5	170.5	0
	深緑のいざない	5.0	3.4±0.2	23.7	6.7±2.6	3	16.7±3.3	38.2	161.0	0
	龍まさり	5.0	3.0±0.6	14.7	4.2±1.9	8	12.8±2.5	33.1	90.0	0

注1) 播種日: 2020年8月29日、トンネル被覆期間: 定植日～2021年3月18日 注2) 調査株数: 30株(15株×2反復) 注3) 平均土標準偏差

注4) 調製: 葉数2.5枚とし、根は5mm程度に切り揃えた 注5) 欠株率: 1m範囲で2カ所調査し欠株率を算出

注6) 葉鞘長: 外葉の付近より根元までの長さとした 注7) 抽だい株率: 調査株内の抽だい株数より算出

表3 定植日とトンネルの有無が越冬後生育と収穫時生育に及ぼす影響(2020年)

定植日	トンネル 被覆	越冬後生育 (3/18調査)			収穫時生育 (6/22～24調査)				
		草丈 (cm)	葉鞘径 (mm)	欠株率 (%)	葉鞘径 (mm)	葉鞘長 (cm)	調製重 (g)	抽だい 株率 (%)	換算 収量 (t/10a)
11/4	有	44.3	7.1±1.9	13	15.5±3.4	37.6	118.6	84	0.5
	無	21.1	5.4±1.2	5	16.9±2.4	40.8	154.0	0	4.7
12/2	有	23.7	6.7±2.6	3	16.7±3.3	38.2	161.0	0	5.0
	無	17.6	4.2±0.7	5	15.8±1.7	38.2	144.3	0	4.4

注1) 品種: 「新緑のいざない」 注2) 播種日: 2020年8月29日、トンネル被覆期間: 定植日～2021年3月18日 注3) 調査株数: 30株(15株×2反復)

注4) 平均土標準偏差 注5) 調製: 葉数2.5枚とし、根は5mm程度に切り揃えた 注6) 欠株率: 1m範囲で2カ所調査し欠株率を算出

注7) 葉鞘長: 外葉の付近より根元までの長さとした 注8) 抽だい株率: 調査株内の抽だい株数より算出

表4 定植日とトンネルの有無が越冬後生育と収穫時生育に及ぼす影響(2021年)

定植日	トンネル被覆	越冬後生育 (3/14調査)			収穫時生育 (5/31調査)					収穫時生育 (6/21調査)				
		草丈 (cm)	葉鞘径 (mm)	欠株率 (%)	葉鞘径 (mm)	葉鞘長 (cm)	調製重 (g)	抽だい 株率 (%)	換算 収量 (t/10a)	葉鞘径 (mm)	葉鞘長 (cm)	調製重 (g)	抽だい 株率 (%)	換算 収量 (t/10a)
10/28	有	55.0	11.2±1.6	1	15.1±2.5	37.0	116.5	78	1	14.6±3.3	40.3	110.4	80	1
	無	16.5	7.4±1.1	0	14.0±2.1	30.8	89.9	40	2	14.9±2.2	38.7	111.3	33	2
11/25	有	37.5	6.8±0.9	4	13.4±2.2	28.3	85.1	2	3	14.7±3.0	38.6	125.6	6	4
	無	19.9	6.2±1.9	0	13.4±1.5	26.2	80.8	0	3	14.3±1.8	35.0	107.7	0	3

注1) 品種：「羽緑一本太」 注2) 播種日：2021年8月25日、トンネル被覆期間：定植日～2022年3月14日 注3) 調査範囲：1区1m×3反復

注4) 平均±標準偏差 注5) 調製：葉数2.5枚とし、根は5mm程度に切り揃えた 注6) 葉鞘長：外葉の付近より根元までの長さとした

注7) 抽だい株率：調査株数のうち、収穫時に花芽が形成あるいは開花していた株の割合

注8) 換算収量：調製重(g)、栽植株数、抽だい率、商品化率(80%と想定)を元に算出

(宮城県農業・園芸総合研究所)

## [その他]

予算区分：県単

研究期間：2019～2021年度

研究担当者：高橋勇人・鹿野弘・伊藤隼・澤里昭寿（宮城農園総研）

発表論文等：高橋ら（2022）東北農業研究、75：69-70